

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070501947		
法人名	社会福祉法人 敬寿会		
事業所名	グループホーム 美咲ヶ丘		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区大字新道寺1085-1 (電話)093-453-1131		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成20年9月19日	評価確定日	平成20年10月16日

## 【情報提供票より】(平成20年8月30日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 11 人	非常勤 6 人 常勤換算 10、4

### (2)建物概要

建物形態	(併設)/単独	(新築)/改築
建物構造	軽量鉄骨平屋 造り 階建ての 階 ~ 階部分	

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要(8月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87、8 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	健和会大手町病院	くまがい内科クリニック	小倉南歯科医院
---------	----------	-------------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通量の多い国道から100メートル位入った、緑豊かな自然環境の中に、特別養護老人ホーム併設のグループホーム美咲ヶ丘があり、周りの風景に調和した建物で穏やかな、落ち着いた雰囲気である。管理者や職員は利用者の意向を尊重し、その日の心身の状態を把握し、一人ひとりの能力に合わせて役割分担をし、その人らしい暮らしが出来るように支援している。また、地域の子供会とのそうめん流しや保育園の運動会、お遊戯会等に参加し、ホームで行なわれる納涼祭に招待し、地域との交流が活発で、地域から孤立せず、地域の一員として利用者と職員は支え合って暮らしている。利用者、家族、かかりつけ医と重度化に向けた対応を話し合い、ターミナルケアの指針を作成し、終末期の支援体制も確立されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点は8件あったが管理者、職員全員で努力した結果半減している。今後は「ホームの運営に関して、運営推進会議等の活用」「市町村との積極的な協働事業の実現」「グループホーム協議会等を通じた同業者との交流」「災害時における食糧、飲料水、毛布等の備蓄」などを工夫していくことが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員はミーティングの中で、日々の利用者の気づきや、介護計画の見直しなどを話し合い、自己評価票を各ユニットの管理者が作成している。今後は、自己評価を一人ひとりの職員が少しづつ分担して作成することで、評価の意義を理解し、改善に向けての取り組み、介護サービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議には、利用者の家族、地域住民、包括支援センター職員、ホーム職員などが参加し、ホームからは現況や行事予定等を報告し、参加者からは質問や情報提供などがあり、双方向的な意見交換会が出来ている。今後は、ホームの運営に関する問題やボランティアの育成などについても問題を提起し、相談していくことが望まれる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関に苦情相談窓口や意見箱を配置し、家族からの意見、苦情、要望などが出やすいように配慮している。また、管理者や職員は、毎月家族が来訪する際に、近況報告を兼ねて、要望を聴いている。運営推進会議に19人、納涼祭には27人の利用者の家族の参加などもあり、協力体制も出来ているので、管理者や職員は家族の協力を得て、介護サービスの質の向上と質の確保を目指していくことが望まれる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>納涼祭や敬老祝賀会、文化祭、毎年恒例の力士の慰問、小学3年生(24人)との交流など、年々地域との交流が活発になり、グループホーム美咲ヶ丘は地域の一員として少しづつ認知されてきている。今後は開かれた地域密着型グループホームホームとして、信頼され、協力を得て、介護の相談を受けるなどして、活動していくことを期待する。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型理念として、職員全員で作成し、玄関、事務所、更衣室に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を唱和し、理解し、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会と協賛行事を実施し、家族と一緒に参加している。保育園の行事参加、小学3年生(24人)との交流、納涼祭、文化祭など活発に地域交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング時に職員から意見を聴き、管理者がまとめて自己評価を作成している。運営者、管理者は評価の意義を理解しているが、職員は数名が理解している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は不定期に行っているが、利用者の家族の出席が多く、活発な意見交換会である。		会議は2ヶ月に1回開催出来るようにし、マンネリ化しないように、意見が出た案件は次の会議までに整理し、結果報告が出来るようにし、参加者が素直に意見を出せる雰囲気をつくり、家族と地域、ホーム、行政などと協力関係を確立して、ホームの運営に反映していく会議になるように更なる工夫が望まれる。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の統括センターや地域包括支援センターを訪問し、パンフレットを配布し、交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在該当者はいないが、「地域権利擁護」や「成年後見制度」に関する勉強会を法人全体で実施し、職員全員が理解し、利用者や家族に説明できるように努力している。また、パンフレットも用意している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時や利用者の心身の変化があった際に連絡している。法人全体の広報誌を配布し、ホームの廊下に利用者の日常生活の様子を撮った写真等を掲示し、職員が家族に内容等を説明し、見てもらっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の要望、苦情、相談などを処理する様子をマニュアル化し、運営に反映できるように努力しているが、家族からの運営に関する意見はほとんど出ない。		家族会を定期的に開催し、家族と管理者、職員がコミュニケーションをとりながら、気軽にホーム運営に関する話し合いが出来るような雰囲気をつくり、反映していくことが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員はユニットごとに固定せず、ユニット間を行き来し、職員全員がすべての利用者との関係を築き、職員の異動や離職時に起きる、利用者のダメージを最小限に抑えるように配慮している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用は就業規則で定めている。職員がのびのびと働きやすい環境になるように、休憩室や休憩時間の確保などに、工夫している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	利用者一人ひとりに合わせたサービスや人権尊重に関する職員研修を実施し、職員一人ひとりが目指すグループホームについて意見を出しあっている。		
5. 人材の育成と支援					
13	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職場での実務を通じて行う職員の教育訓練を実施している。また、法人主催の職員研修会や、ホーム内学習会などを実施し、職員を育てる取組をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護保険施設や他事業所と連絡を取り合い、情報交換を行っているが、グループホーム協議会には加入していない。		地域のグループホーム協議会に加入し、相互訪問などを行い、情報交換しながら、介護サービスの質の向上、質の確保に向けて取り組んでいくことが望まれる。
<b>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者や家族のホーム見学や体験入居を通じて、利用者や職員と馴染みながら、入居できる体制がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者や職員は、利用者一人ひとりと共に過ごし、支え合う関係をつくり、喜怒哀楽を共にしている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の入居前の生活歴などを把握して、利用者が今、何を望んでいるのかを見極め、出来るだけ利用者の意向を尊重し介助している。意向表出のできない利用者は家族、知人等に相談したり、生活歴の記録を読み返して、利用者が安心して暮らせるように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスや職員ミーティングを行い、家族に相談し、介護計画を作成している。		
19	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりの心身の状態変化に応じて、その都度、家族に説明し、意見を聞き、介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の特別養護老人ホームやデイサービスに行き、さまざまな活動に参加している。また、買い物、外出、ドライブ、地域の行事参加など、ホーム独自の多機能性を活かして活動している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状態変化を、かかりつけ医と連絡を密にとり、早急に対応できる体制が取れている。		
22	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針を作成し、利用者の状態変化に応じて、家族の気持ちを組みながら、ホーム内でどこまでお世話出来るのかを主治医、家族、職員で話し合う体制が出来ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを尊重し、管理者、職員全員で利用者の尊厳と権利が守れるように努力している。		
24	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの生活のリズムや本人が望んでいることを優先し、利用者に合わせて介助している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者のほとんどが介助がいらず、全員食欲旺盛である。利用者の中に職員が入って食べる食事風景は穏やかで、微笑ましい。食事の盛り付けや色合い、味等は食欲をそそるものがある。また、配膳、下膳や茶わん拭き等を利用者と職員が、一緒に行ない賑やかで楽しそうである。		
26	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の一人入浴で、毎日ゆっくり楽しめるように配慮しているが、デイサービス開設のため、試験的に午前中の入浴になっている。		利用者の希望を尊重し、出来るだけ自由な時間に入浴できる配慮が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯物干しやたたみ、手芸、園芸、草取り、カレンダーめくり等、利用者一人ひとりの希望に合わせた役割分担をしている。		
28	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人全体の敷地が広いので利用者と職員は敷地内を散歩し、自動販売機でジュースを買ったりし、また家族の協力を得て、出来るだけ外出する機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけていないので、利用者は自由に出入りしている。		
30	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練(日中、夜間)を実施している。近隣の社会福祉施設と協定を結び、相互協力体制を構築している。		防災訓練は、地域住民の協力を得て実施し、非常食は水や火を使わずに食べられる物を用意し、法人で備蓄している飲料水はホームでも備蓄しておくことが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックは細かく実施している。必要な利用者以外は、一人ひとりの水分チェックはしていないが、水分量は利用者一人ひとりが平均1、500CCを摂取するよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は吹き抜けで、自然の光が降り注ぎ、壁は季節感を表す草花や手芸を飾り、廊下のソファは利用者が一人で過ごす空間があり、居心地よく暮らせる配慮がある。		
33	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には利用者が昔使っていた馴染みの物をたくさん持ち込み、利用者一人ひとりの居室が自分の家となっている。また、職員は利用者の希望を家族に伝え、馴染みの物を持参してもらっている。		